
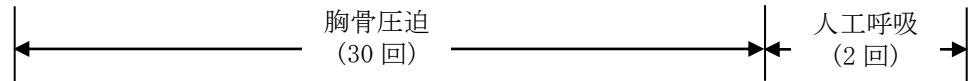


【電気の基礎知識 電気の安全に必要な基礎知識 ハイブリッド車の概要】

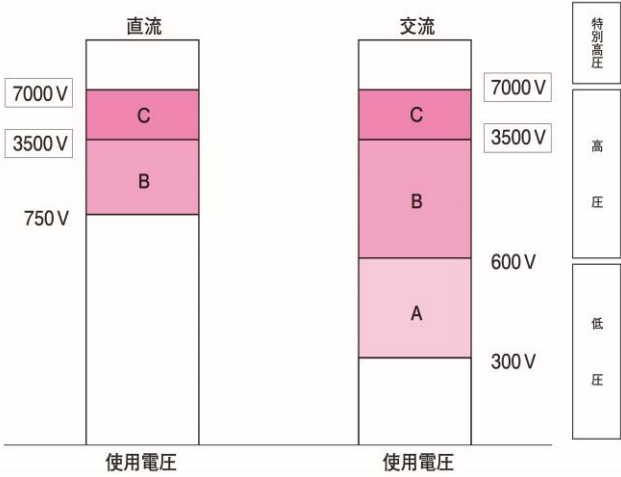
奥付：第三版から第四版で変更した箇所（平成29年7月）

頁	箇所	内容
28	下から11～10行目 (傍線部分を削除)	(ロ)患者を硬い床の上に仰向けに寝かせ、後頭部を後屈させる。
	下から9行目 (傍線部分を削除し、網掛け部分のように変更)	(△ロ)加圧圧迫する部位を確かめる(図2-13)。加圧圧迫するのは、乳頭と乳頭を結ぶ線の真ん中胸の左右真ん中にある胸骨の下半分である。
	下から7～6行目 (傍線部分を削除し、網掛け部分のように変更)	(ニハ)両手の手のひらを重ねて強く下方へ圧迫する(図2-14) 施術者は、仰臥した被災者の横について、掌尾手のひらを胸
	下から2行目 (傍線部分を削除し、網掛け部分のように変更)	加圧圧迫のときは上半身の体重を掛けるような、垂直に体重が加わるよう両肘をまっすぐに伸ばす姿勢とす
28	図2-13	<p>図中の『部位』及び『図の名称』の変更 (変更後) (変更前)</p>  <p>図2-13 圧迫する部位</p> <p>図2-13 心臓の位置</p>
29	上から1行～3行目 (傍線部分を削除し、網掛け部分のように変更)	<p>(ホニ)加圧圧迫の程度は、成人の場合は傷病者の胸が4～5cm(約40kgの体重を加える)ひずむ程度に加圧約5cm沈み込むように強く圧迫し、小児には、やや加減両手又は体格に応じて片手で、胸の厚さの約$\frac{1}{3}$が沈むまでしっかり圧迫する。また、回数は、成人の場合は1分間に60100～80120回、小児の場合は1分間に100回ぐらいとする。</p> <p>(△ホ)加圧後は力を抜く圧迫と圧迫の間(圧迫を緩めるとき)は、十分に力を抜き、胸が元の高さに戻るようにする。</p>
	下から1行目 (傍線部分を削除)	(30+2)救急隊に引き継ぐまで絶え間なく行う。

29	図 2-15 (差し替え)	<h3 style="text-align: center;">胸骨圧迫</h3> <ul style="list-style-type: none"> ●胸の左右真ん中を圧迫 ●強く(胸が約 5 cm沈むまで行うが, 小児は胸の厚さ約$\frac{1}{3}$が沈むまで行う) ●速く(1 分間に 100~120 回のテンポ) ●絶え間なく(30 回連続) ●圧迫と圧迫の間は十分に力を抜き, 胸が元の高さに戻るようにする(胸から手を離さずに) 	<h3 style="text-align: center;">人工呼吸</h3> <ul style="list-style-type: none"> ●気道を確保し、鼻をつまみながら息を吹き込む ●胸が上がるのが見えるまで ●1 回約 1 秒間かけて ●吹き込みは 2 回まで
30	上から 4 行~5 行目 (傍線部分を削除)	<p style="text-align: center;">AED は、成人(約 8 歳以上)はもとより小児(約 1 歳以上約 8 歳未満)にも使用できるが、1 歳未満の乳児に対しては、AED は使用できない。</p>	
	下から 8 行目 (傍線部分を削除)	<p style="text-align: center;">場合があるが、成人(約 8 歳以上)の傷病者に小児用</p>	



頁	箇所	内容
7	上から 7 行目	<p>計算式の変更</p> <p>(変更後) $\frac{V_0}{R_0} = \frac{V_1}{R_1} \boxed{+} \frac{V_2}{R_2} \boxed{+} \frac{V_3}{R_3}$</p> <p>(変更前) $\frac{V_0}{R_0} = \frac{V_1}{R_1} \boxed{=} \frac{V_2}{R_2} \boxed{=} \frac{V_3}{R_3}$</p>
7	上から 9 行目	<p>計算式の変更</p> <p>(変更後) $\frac{V_0}{R_0} = \frac{V_0}{R_1} \boxed{+} \frac{V_0}{R_2} \boxed{+} \frac{V_0}{R_3}$</p> <p>(変更前) $\frac{V_0}{R_0} = \frac{V_0}{R_1} \boxed{=} \frac{V_0}{R_2} \boxed{=} \frac{V_0}{R_3}$</p>

頁	箇所	内容																						
22	<p>第3表 (傍線部分を削除し，網掛け部分のように変更)</p> <p>図 2-3 差し替え</p>	<p>第3表 電気絶縁手袋の種別と規定</p> <table border="1" data-bbox="470 322 1506 616"> <thead> <tr> <th rowspan="2">規定種別</th> <th colspan="2">使用電圧</th> <th rowspan="2">耐電圧試験試験電圧</th> <th rowspan="2">厚労省型式検定</th> </tr> <tr> <th>交流</th> <th>直流</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>種別A</td> <td>300V超 600V以下</td> <td>300V超 750V以下</td> <td>3,000V/1分間</td> <td>要</td> </tr> <tr> <td>種別B</td> <td>600V超 3,500V以下</td> <td>750V超 3,500V以下</td> <td>12,000V/1分間</td> <td>要</td> </tr> <tr> <td>種別C</td> <td>3,500V超 7,000V以下</td> <td>3,500V超 7,000V以下</td> <td>20,000V/1分間</td> <td>要</td> </tr> </tbody> </table> <p>種別については便宜上 A, B, C とした。</p>  <p>図 2-3 電気絶縁手袋の種別と直流電圧及び交流電圧</p>	規定種別	使用電圧		耐電圧試験試験電圧	厚労省型式検定	交流	直流	種別A	300V超 600V以下	300V超 750V以下	3,000V/1分間	要	種別B	600V超 3,500V以下	750V超 3,500V以下	12,000V/1分間	要	種別C	3,500V超 7,000V以下	3,500V超 7,000V以下	20,000V/1分間	要
規定種別	使用電圧			耐電圧試験試験電圧	厚労省型式検定																			
	交流	直流																						
種別A	300V超 600V以下	300V超 750V以下	3,000V/1分間	要																				
種別B	600V超 3,500V以下	750V超 3,500V以下	12,000V/1分間	要																				
種別C	3,500V超 7,000V以下	3,500V超 7,000V以下	20,000V/1分間	要																				
87	<p>上から 2 行目 (傍線部分を削除し，網掛け部分のように変更及び追加)</p>	<p>ホール，き裂き，傷などの損傷がないことを確認すること。</p>																						